

「韓国研修参加報告書」

京都大学文学研究科 修士2年 前田雅彦

①韓国語に関しては派遣前にはまったく知識がなかったが、ソウル大学語学学校における3週間の研修により、ハングル文字の読み書き、初歩的な文法、初歩的な会話を行うことができるようになった。また週2回、午後ソウル大学の社会科学の教授たちから韓国の社会や文化、歴史について講義を受け、これにより日本で暮らしているときには目に入ってこなかった韓国の様々な側面に目を開くことができた。講義の内容としては、「韓国と北朝鮮の軍事協定について」「韓国のこどもの日の由来」「韓国社会の大衆意識の傾向」「韓国の家族観の変化」などがあり、テーマは多岐にわたったが、「日本から見た韓国」ではなく「韓国人から見たドメスティックな韓国」が語られており、外国として見る視点とは別の視点からの、より深い韓国像を得ることができ、同時にさらに韓国について学びたいと思うようになった。

留学については、私は韓国の研究を専門とするわけではないので現時点では韓国に長期留学する予定はないが、海外に身を置き外国人と交流することは自分の考え方や自国文化を客観視する上で非常に役立つので、今後の研究との関係で海外に長期留学をすることは真剣に検討している。

②派遣中は、ソウル大学での語学学習・講義に加え、積極的に韓国社会について学ぼうと心がけた。具体的には、韓国の学びのコミュニティ「スユノモN」を訪問し調査を行った。スユノモは大学院生など研究者を中心として設立された在野の研究・学習のための共同体であり、大学に所属する研究者を要請するための組織ではなく一般の人にも開かれた学びの場を目指しており、そのため大学生や大学院生以外に多くの社会人も参加している。このような活動を行うスユノモNを訪問し、教員の一人である李珍景氏にインタビュー調査を行った。またそれ以外に、日本が過去に韓国を植民地化した歴史が記録・展示されている施設を訪問した。ソウル大学大学院に在学中の佐藤暁人さんの案内で、かつて日本政府が使用していた刑務所（現在は博物館となっている）を訪れた。また韓国郊外にある独立記念館も見学した。これらの施設では過去に日本人が韓国人を抑圧した行為を詳しく見ることができ、韓国政府や韓国人々に日本の過去の行為がどのように認識されているかを感じることができた。

③本プログラムでは上記のように語学的知識・韓国社会についての知識を多く得ることができたが、それ以外に、ソウル大学の学生と交流する機会が多くあった。学問の学習だけでなく、同世代の韓国の学生と意見を交わし交流する機会が多く設けられていたのも本プログラムの特徴で、韓国の学生と意見を交換し交流できたことは、今後の研究活動の上でも非常に有益な経験となると思われる。

④①で書いたように私は韓国の研究を専門とするわけではないので現時点では韓国に長期留学する予定はないが、今後の研究との関係で海外に長期留学をすることは真剣に検討している。また短期間とはいえ韓国での研修は、隣国である韓国の社会や人々を理解する上で重要な経験となった。私は日本社会を研究対象としているが、歴史上、そして今後ますます日本との関係が重要になっていくと思われる韓国について学ぶことは、日本社会を考える上でも役立っていくと思われる。